

V06a すばる望遠鏡計画の進捗

海部 宣男 (国立天文台ハワイ観測所)、他すばる望遠鏡チーム

すばる望遠鏡の建設は9年計画の8年目を迎え、本年度はいよいよファーストライトを実現する予定である。現在、鏡の製作が工程上でクリティカルな状況にあり、これらをより効率的に進めることによって、できるだけ早期のファーストライト実現を目指している。以下に、主たる工程についてのサマリーを列挙する。

- 主鏡研磨は、現時点で近日中に終了する見込みであり、波長500nmで80%のエネルギーが直径0.07"以内に集中するという、非常に高精度の鏡面が実現できる予定である。また、赤外副鏡については、三鷹にて銀蒸着を行う計画を固めつつある。
- 山頂ドーム内で望遠鏡の制御試験が進んでいる。小望遠鏡を使用した試験による追尾精度の確認やソフトウェアのバグ出し等、ファーストライトに向けて着実に進展している。
- 三鷹キャンパス内に解析研究棟が完成した。解析研究棟は日本国内での研究やデータ処理の拠点となる。
- 分散解析ソフトウェアのプロトタイプ第2版の製作が終了した。これによって、分散環境上で対象となるデータとアプリケーションを検索してデータ処理を行い、結果のみを自分のWSに返すような環境が実現した。
- CISCO, MIRTOS, Suprime-Cam (カセグレンモード), VTOS, NHK ハイビジョンカメラ等、ファーストライトに用いる観測装置の製作や調整が進んでいる。

講演では、主鏡の研磨結果やファーストライトのスケジュールを中心に、すばる計画全般の進捗状況について話す予定である。